

## 北京師範大学交換留学レポート

人文社会科学部

小川菜美子



2018年8月28日(火)、ついに北京に到着しました。はじめの一週間は、手続きや口座の開設、クラス分けテストや教科書購入など、毎日のようにすべきことがたくさんあり、忙しく感じました。そして、8月31日(金)、留学生の入学式が行われました。使用言語は、中国語に加え、英語・韓国語がありました。長く感じたのはそのせいかもしれません。なぜ韓国語の翻訳があるのか

という、北京師範大学の留学生の大半が韓国人だからです。私のクラスも、半数は韓国人で、どこにいても韓国語が聞こえてきます。

さて、今回の報告では、おもに、北京師範大学での授業の内容について述べたいと思います。

私は語学研修生であるため、基本的には中国語の授業を履修しています。スピーキング、リーディング、リスニングと新聞や雑誌を読む授業があります。入学式前に行われたクラス分けテストで、レベル別にクラス分けされ、私はちょうど真ん中ほどのクラスに振り分けられました。授業が始まると、中国語がどんどん入ってきて、処理していくのが大変でした。しかし、クラスメイトたちと話すときもすべて中国語なので、その状況に慣れるまでそんなに時間はかかりませんでした。クラスメイトには、先ほども挙げた韓国人のほかに、エジプト人、ベナン人、ドイツ人、フランス人、イギリス人、イタリア人、そして日本人がおり、一クラス20人くらいです。中国人以外の人と中国語でコミュニケーションを取ることが当たり前の日常で、今となっては違和感もなくなりました。また、複数の言語を操る学生ばかりなので、お互いに知っている言葉を伝えあい、他の言語で会話をするというのもしばしばで、私にとっては、最高の環境で日々を過ごせています。そして、授業の難易度もちょうどよく、毎日成長を感じることができ、とてもうれしく思っています。発表の機会が多く、その度に発音や表現について自ら学ぶ機会があり、身につけている感覚があります。



また、私は語学の授業のほかに、漢語文化学科の授業も聴講という形で出席しています。中国の歴史や文化、地理などについての授業で、ここでも学ぶことがたくさんあります。正直に言うと、先生のおっしゃっている内容が分からないこともあります。周りの学生に助けをもらいながら、楽しく参加しています。

さらに、留学生向けの書道の授業も履修しています。これは選択制で、履修したい学生だけが履修するという形です。日本でも書道をしてきていた私は、そんなに物怖じせず構えていたのですが、始まったのは楷書の練習ではなく、隸書の練習で、なかなか難しくまだまだ上手には書けません。しかし、中国ならではのやり方を体験できて楽しいです。以上のように、毎日充実した生活を送ることができています。

最後に、中国の発展を、身をもって感じるとともに、毎日さまざまなおいしい料理を食べています。

お金の使い方やおろし方まで全く違います。生活については次回にとっておきたいと思います。